

石川の染織の保存継承に向け、県内の呉服店主や作家らが「いしかわ結衣プロジェクト」をスタートさせる。若者の着物離れや職人の高齢化で着物産業を取り巻く環境が厳しくなる中、イベントなどを通じて県無形文化財の絹織物「牛首紬」や加賀友禅を身近に感じてもらう。11月15日に七尾市でプロジェクト発足を記念した和装のドレスショー(北國新聞社後援)を開く。

呉服店主、作家ら 新プロジェクト

プロジェクトは白山市の着付け教室「金澤和装塾」主宰の本田久美子さんが代表を務め、呉服店や織物工房、作家ら9団体で構成する。8月に結成した。

計画では和装のドレスショーを開くほか、能登半島地震の影響で自宅に眠っている着物を手放そうと考えている被災者に着物の再活用法を提案し、和装のドレスにすることなどを紹介する。和装文化を活用した復興支援や国際交流、観光振興にも取り組む。

11月15日のドレスショーは県七尾美術館で行われ、加賀友禅の振り袖などを活用した和装ドレス約30着を披露し、結婚式で

七尾美術館で 11月 和装ドレスショー



11月のショーへ準備を進める関係者
—県七尾美術館

着物の活用法伝え

の活用に加え、身長や年代を問わず楽しめることをPRする。七尾市の呉服店「和日遊日」は「なお」が企画した。

さんは「和装文化は着るだけでなく、人の心をつなぎ、地域に誇りをもたらすもの。新たな魅力を発信していきたい」と語った。ショーは入場無料で、午後2時に開演する。問い合わせは和日遊日はるなおまで。